

[成果情報名]低温開花性でボリュームのある白色秋輪ギク有望系統「長崎4号」

[要約]秋輪ギク「長崎2号」から選抜した「長崎4号」は、「長崎2号」と同等の低温開花性を示し、「長崎2号」より90cm調整重が重く、花径も大きい。また、「神馬1号」並みの花径を示し、ボリュームがある。

[キーワード]秋ギク、長崎4号、90cm調整重、花径、低温開花性

[担当]農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330 (直通)0957-26-4319

[区分]花き

[分類]普及

---

#### [背景・ねらい]

わが国における秋輪ギクの主要品種「神馬」は、開花に高い温度を必要とし、燃油価格の高騰等により経営を圧迫している。そのため、全国的に「神馬」の低温開花性系統が育成され、導入が進んでおり、本センターでも「神馬」に比べ暖房費を30%削減できる系統「長崎2号」(2008年ながさき普及技術情報)を育成し、普及にうつしている。

しかし、生産現場において、「長崎2号」は「神馬1号」と比較すると切り花重量が軽く、花径が小さいという問題が発生した。

そこで、当センター内の圃場及び現地生産者圃場の「長崎2号」の中から切り花重量が重く、花径が大きい系統を選抜する。

#### [成果の内容・特徴]

「長崎2号」の芽状変異系統の中から選抜した「長崎4号」は、対照品種「長崎2号」、「神馬1号」と比較して、以下のような特性を示す。

1. 到花日数は、「長崎2号」と同程度であり、「神馬1号」より短い(表1)。
2. 90cm調整重は、「長崎2号」および「神馬1号」よりおおむね重い(表2)。
3. 収穫時の花径は、「長崎2号」より大きく、「神馬1号」と同程度である(表3)。
4. 切花長、葉数、柳葉数、花首長、側枝節の状況については、「長崎2号」と同程度である(表4)。

#### [成果の活用面・留意点]

1. 「長崎4号」は、「長崎2号」と同一の栽培管理で問題ない。

[具体的データ]

《耕種概要》

出荷作型	2009年10月	2009年12月	2010年3月	2011年3月	2011年12月A	2011年12月B	2012年2月
試験場所	農技センター	農技センター	農技センター	農技センター	現地(諫早市)	現地(諫早市)	農技センター
直挿し日	2009/7/24	2009/9/1	2009/11/16	2010/11/19	2011/9/12	2011/9/7	2011/10/19
消灯日	2009/9/16	2009/10/28	2010/1/8	2011/1/15	2011/10/27	2011/10/30	2011/12/21
再電照	なし	11/9~11/11	なし	なし	11/13~11/15	11/13~11/16	1/9~1/10
最低温度管理	加温なし	15℃(10/28~11/18) 変温管理※1(11/19~)	10℃(11/30~12/2) 12℃(12/3~12/28) 14℃(12/29~1/7) 16℃(1/8~1/27) 12℃(1/28~)	11.5℃(12/2~1/9) 13.5℃(1/10~1/14) 14.5℃(1/15~2/3) 変温管理※2(2/4~3/5) 15℃(3/6~)	変温管理※3(10/27~)	13℃(11/11~12/20) 15℃(12/21~)	10℃(11/21~12/14) 15℃(12/15~1/12) 12℃(1/13~2/3) 14℃(2/4~)

※1) 15℃ (17:00~20:00)、12℃ (20:00~5:00)、11℃ (5:00~9:00)、10℃ (9:00~17:00)

※2) 2/4~2/23 は、14℃ (18:00~20:00)、11℃ (20:00~24:00)、10℃ (0:00~18:00)

2/24~3/5 は、13℃ (18:00~20:00)、10℃ (20:00~18:00)

※3) 18℃ (17:00~24:00)、16℃ (0:00~8:00)

表1 各出荷作型における消灯からの到花日数(日)の比較

系統名	2009年10月	2009年12月	2010年3月	2011年3月	2011年12月A	2011年12月B	2012年2月
長崎4号	45	57	48	59	53	57	54
長崎2号	46	57	51	59	53	57	55
神馬1号	47	—※4	59	—※5	53	—	58

※4) 65日時点で開花しなかったため、データなし。

※5) 75日時点で収穫率約80%であったため、データなし。

表2 各出荷作型における90cm調整重(g)の比較

系統名	2009年10月	2009年12月	2010年3月	2011年3月	2011年12月A	2011年12月B	2012年2月
長崎4号	76.7	60.3	71.7	69.3	—	77.7	64.1
長崎2号	62.3	55.4	72.8	68.0	—	75.5	61.1
神馬1号	58.3	—※4	64.3	—※5	—	—	59.7

表3 各出荷作型における収穫時の花径(mm)の比較(2011年、2012年)

系統名	2011年3月	2011年12月A	2011年12月B	2012年2月
長崎4号	25.4	26.6	23.6	23.9
長崎2号	24.8	26.0	22.6	23.2
神馬1号	—※5	26.8	—	24.2

表4 12月開花作型における開花特性(2011年現地試験B)

系統名	消灯時		切花長 (cm)	葉数 (枚)	柳葉数 (枚)	花首長 (cm)	側枝節の状況			消灯後		舌状花数 (個)	管状花数 (個)
	草丈 (cm)	葉数 (枚)					摘芽 (個)	小芽 (個)	消失 (個)	草丈伸長 (cm)	増加節数 (節)		
長崎4号	55.9	30.0	110.5	55.1	1.9	2.6	33.4	0.6	0.0	54.6	25.1	268.3	12.0
長崎2号	55.0	28.3	113.5	54.1	2.1	3.1	31.2	1.5	0.0	58.5	25.8	262.3	13.0

[その他]

研究課題名：輪ギクの新品種育成と栽培技術確立

予算区分：県単

研究期間：2009~2011年度

研究担当者：峯大樹、茶谷正孝